

学校や地域で防災教育・活動をする子どもや学生を顕彰する2025年度の1・17防災未来賞「ぼうさい甲子園」(兵庫県など主催)で、松山市の「ジュニア防災リーダークラブ」が高校生部門のぼうさい大賞に選ばれた。メンバーは14日、愛媛大(松山市文京町)で取り組みを紹介し、防災意識を高める活動を継続する大切さを訴えた。

松山市では18年の西日本豪雨をきっかけに、愛媛大と共同で市防災リーダー育成センターを設置。その一環で、小学生から大学生まで切れ目なく防災学習に取り組むクラブを立ち上げ、メンバーが各校の防災学習や地域の訓練などに参加している。

25年度は高校生計75人が携わった活動をまとめて応募し、部門最優秀賞にあたる大賞を受賞した。14日、愛媛大で開かれたセンターの活動報告会に済美高校3年山岡花菜さん(18)、松山西中等教育学校4年井上彩心さん(16)、松山学院高1年北村幸太さん(16)が出席。高知県黒潮町で研修に参加したことなどを振り返った。

同町は南海トラフ巨大地震時に高さ30センチの津波が想定されて

切れ目ない防災学習誓う

松山市ジュニアリーダークラブ「甲子園」高校生部門大賞

いる。井上さんは夜間に宿舎から津波タワーまで避難する訓練を経験。「訓練と分かっていても夜道を歩く怖さがあった。実際の災害時に冷静に避難することは難しい」という課題が出た」と説明した。

小学生の頃から活動が続いているという北村さんは「一度勉強したことも、状況が変わっていくこともある。活動を継続することで知識の習得などを

愛媛大で報告会

ステップアップしたい」と話した。山岡さんは「いろいろな活動を楽しみながら知識を得られて、その上で賞も頂けた」と笑顔を見せ「将来は看護師として災害医療に携わりたい。大学進学後もクラブの活動を続ける」と語った。

(高橋圭太)

